

上島の文芸

双葉吟社【岩城】

かすかなる鈴の音流れ街暮るる

貝殻の風鈴海の風誘う

心地よき風鈴の音や無人駅

風鈴や風をとらえて舌躍る

水打ちて風の道なる通り土間

風鈴の鳴らねば淋しひとり言

水を打ちて海山の風もらいけり

風鈴や「赤毛のアン」を読みました

打水や三坪の庭に涼満たす

風鈴や夕べ帰宅の窓放つ

空蟬に不思議眼の児童かな

児島 泰

伊佐 幹男

田中 華丘

山元 征子

美濃部 妃苗

林 七重

古林 幹枝

森本 和佳

田名後 豊雨

幸本 孤燈

林 伸子

第二十二回伊藤園お〜いお茶

新俳句大賞 入選

(平成23年7月7日)

《佳作》

◎初時雨向こうの島の晴れており

弓削高等学校2年 越智 大貴

調査へのご協力ありがとうございました

高齢者の方を対象に7月末に実施しました「高齢者保健福祉・介護保険に関する実態調査」につきましては、おかげをもちまして、8割を超える皆様からご回答をいただきました。

ご多忙の中ご協力を賜り誠にありがとうございました。

皆様からのご意見は、介護保険事業計画の見直しや今後の保健福祉行政に活かしてまいります。

福祉部 健康推進課

平成23年春期 カラス捕獲数報告について

5月22日から6月19日までカラスの捕獲を実施しましたので捕獲数を報告します。今年度は9月に再度実施いたしますので、みなさまのご協力をよろしくお願いします。

地 区	捕 獲 数
弓 削 地 区	60羽
岩 城 地 区	48羽
生 名 地 区	50羽
魚 島 地 区	0羽
合 計	158羽

★オータムジャンボ宝くじ★

★1等 1億5,000万円×13本

★前後賞 各5,000万円 ★2等 1,000万円×130本

発売期間 9月26日～10月14日

※この宝くじの収益金は市町村の明るいまちづくりや環境対策、高齢化対策など地域住民の福祉向上のために使われます。

お詫びと訂正

8月号の広報において次のとおり誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

■ P17 かみじま歴史探訪

シリーズ・資料が物語る郷土の歴史⑤

「明治二年に発覚した贋金製造事件」の上段10行目

誤 藩籍奉還 ⇒ 正 版籍奉還

産直市始めます！

ポップコーンの会（上島障がい児を持つ親の会）では「障害者の就労の場づくり」として、9月から定期的に生名港務所において産直市を開きます。

ポップコーンの会のパンや地元で作った野菜、果物、工芸品の販売を予定しています。

皆様のご利用をお待ちしています。



産直市の開催に向けて、8月10日に上村町長へ場所の提供の要請等を行いました。

かみじま歴史探訪

シリーズ・史料が物語る郷土の歴史⑥

ビッケル船長と弓削商船学校



芸予諸島の先人たちは、どの時代にも他地域に先駆けて新しい文化を吸収しながら歩んでいます。日本の近代化が進行した明治期もそうでした。明治三十四年に県下でも北端の孤島に、弓削村外一ヶ村（岩城村）立の弓削海員学校を誕生させ、生名や伯方も加わって五ヶ村立に、さらに愛媛県立から官立とされ、現在の弓削商船高専へと発展してきました。四国全域でも数校の高等専門学校の誕生です。

この学校が創立されたころ、芸予の海域を駆け巡っていたスマートな洋式帆船がありました。弓削商船学校より二年早い明治三十二（一八九九）年に横浜で建造されたバプティスト教会の初代の伝道船福音丸です。この福音丸の責任者・船長として着任したのが、ルーク・ワシントン・ビッケルでした。彼の祖父は、南ドイツの裕福な農家の生まれで、その長男のフィリップ（ビッケルの父）は祖父と共に、十九世紀なかばの革命的な運動に加わり、アメリカに亡命した一家でした。孫のビッケルは、「医学を学び、海上生活の経験、そして船長：最後に福音丸船長兼宣教師として、キリストの福音の使徒として瀬戸内海に遣わされた：」と『島々の伝道者―ビッ



（初代福音丸）

ケル船長の生涯』には記されています。その妻子を含む一家と親交を深めたのが、弓削海員学校の初代校長の小林善四郎でした。

旗本の力石勝之助の四男として誕生直後、御家人の小林家の養子に迎えられて新潟で成長。新潟英語学校で学んだのち、明治十年に三菱商船学校（東京商船大学の前身）に進学、卒業。三菱汽船に勤務後、大阪に府立の商船学校が創設されると、専任教官として勤務、同校の校長に就任しました。でも、この学校は国立の東京商船学校に吸収され、小林はそのころ創立された弓削海員学校の初代校長として着任したのです。

小林善四郎の実父、力石勝之助は幕末に箱（函）館奉行所に勤務したことがあり、次のような履歴書が残されています。

天保七（一八三六）年家督相続、弘化元（一八四四）年に御勘定吟味方改役並（なみ）に、安政元（一八五四）年、箱（函）館奉行支配調役、文久元（一八六一）年に御賄頭役（江戸）：

安政元年から文久元年まで、ほぼ七年間を箱（函）館で勤務した後に、江戸に帰っているのです。その間に、徳川幕府は鎖国政策を放棄して開國に進み、函館港にも英米露等の外国艦船が入港することとなり、函館で勤務中の力石勝之助は入港してきた諸外国の艦船にも応対しています。その際、英国船の通訳をしていた尾張（愛知県）出身の漂流船員（力松）とも対応しています（春名徹『世界を見てしまった男たち』ちくま文庫）。しかし、安政六（一八五九）年に誕生と同時に小林家の養子とされた善四郎は、力石家とも北海道とも無縁で成長しています。

一方、養家の小林家の縁者のなかにも、いち早く幕府の遣英留学生として留学、幕府滅亡後は東大教授・元老院議員に就任、その間に洗礼も受けている中村正直がいました。善四郎の長女、愛子さんは、生前に「家には正直からの手紙が何通も保存されている」と語っていました。彼女の書架には、『島々の伝道者―ビッケル船長の生涯』（一九六七、昭和

四十二年邦訳）の英文の原書（一九一八年刊）も秘蔵されていました。

幕臣出身で郵便制度を確立、東京専門学校（早稲田大学）の創立にもかかわったことで知られる前島密とも、彼が通信次官、善四郎が大阪府立商船学校長時代から深い交友関係があり、小林家には前島が明治三十年前後に贈った数通の直筆の書（掛け軸）が秘蔵されていました。

この善四郎は、ビッケルとの交友を、積極的に教育活動、人間教育に生かそうとした模様です。同校の『六十年史』（昭和三十七年刊）には次のような送別の詩が掲載されています。ビッケル師が所用で一時帰国された明治四十四年四月に、生口島の瀬戸田劇場での送別会で、弓削商船学校生徒一同名で捧げたものです。

春たけなわに東風（こち）吹きて
楊柳青く花紅（あか）し
錦繡（にしき）を故郷に着る君の
船足軽く真帆揚げて
福音丸のキャプテンと

その名も著（たか）しビッケル師

幕臣の家に生まれ、明治の変革の嵐のなかで成長した教育者の姿には、現在の教育制度や理念を超越している側面も秘められているのかも知れません。

しかし、弓削商船の卒業生はみな高い誇りをもって世界に雄飛しました。それを全力で支えたのが小林校長やそれに続く教職員でした。この学校は地域の人たちにとっても誇りであったのではないでしょう



（講習科生と第一期生）

弓削商船高専・岡山商科大学名誉教授
上島町文化財保護審議会顧問 村上 貢 稿